

平成 27 年度国際理解教育セミナー

【日時】2016 年 2 月 7 日（日）10：00～16：20

【場所】アイパル香川（香川国際交流会館）3 階 第 4、5、6 会議室

【内容】（1）ワークショップ 第一部 地域と地球の視点から考えるわたしたちの未来

<講師>平野 木恵氏（NIED・国際理解教育センター研究員）

まず初めに国際理解教育とは何かについてパワーポイントを使用し簡単な説明があった後、アイスブレイクや「そうだったのクイズ」という活動を通して、海外と日本を比べると沢山の違いが見えてくるが、私たちの住む日本でも多くの違いが存在し、それらを理解し尊重していくことが重要であることを学びました。

次に、写真から読み取れる情報を基に考えを深める「フォトランゲージ」という手法を体験しました。今回実施したフォトランゲージは通常のやり方を応用したもので、具体的には一部しか写っていない写真を各グループに配布し、それぞれのグループで写真がどんな状況で撮影されたものなのかを考え、絵を描き写真を完成させるというものでした。このワークショップを通して、固定化された「常識」が自分の中に存在し、その「常識」の中でしか考えることができていることに気付かされたと感想がありました。

（2）ワークショップ 第二部

グループを変えながら、自分達がどこかの国に行くと想定し、「期待すること、心配なこと、現地の人や近所の人への希望すること」の 3 点について、その後、今度は自分達が住む地域に外国人が引っ越してきて暮らすことになったと想定し、「期待すること、心配なこと、彼らの要望、彼らに対してできること」の 4 点について考えました。そして、他グループと共有した後、最後に、多文化共生社会実現のために育む力とは何かについて 3 つのポイント「個人（自分）につける力、子供達に育みたい力、社会全体に必要な力」に絞り考えを出し合いました。参加者全員がポストイットに思い付く言葉を書き出した結果、ホワイトボードが全て埋め尽くされるくらい沢山の意見が出ました。



(3) 実践報告「多文化共生の社会づくりを目指した香川での取組」

<発表者>児島 由佳氏、谷 祐喜子氏

実際に香川県が取り組む多文化共生の社会づくりについて具体的な事例を紹介しながら発表していただきました。香川県には現在 9,000 人程の外国人がおり、個人の取組みだけでなく地域が一つとなって多文化共生実現に向けた取り組みを行うことが重要であることがわかりました。

(4) 2015 年度 JICA 四国教師海外研修エチオピア 研修報告&実践授業紹介

1. 研修報告

<発表者>教師海外研修参加教員

エチオピアでの研修の様子について、写真を用いながら紹介しました。

2. 実践授業紹介

<発表者>

川原 恵子 教諭 (つるぎ町立半田中学校/徳島県)

帰国後に中学生を対象に 15 時間行った授業の紹介をしていただきました。川原先生は日本とエチオピア両方で「権利の熱気球」の授業を行い、結果を比較することで日本の生徒がエチオピアの生徒の考え方を知る機会となりました。また、参加者は実際に授業の一部を体験することで、授業についての理解を深めることができました。



【参加者の感想】

- ・ワークショップと講師から多文化共生についてお話を伺い、日常の自分の意識の持ち方についても刺激になった。
- ・長時間だったが多文化共生への意見がそれとなく計画的に仕組まれていて素晴らしかった。
- ・香川県の現状についてあまり考えてなかったと振り返る機会になった。
- ・教師海外研修参加者による実践授業を受けられる生徒は恵まれていると思った。